

令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

府中市立府中第一中学校

教科：国語科		
生徒の学習状況	1年	○辞書の活用の定着。 ○ドリルを活用した漢字学習の定着。 ○言語活動（班活動・スピーチ等）の充実→積極的に活動する。
	2年	○言語活動では、積極的かつ文章や知識を根拠にした思考・判断・表現がおおむね満足できる内容で、取り組んでいる。
	3年	○単元の個人目標を設定し、目標達成に向けた取り組みができています。 ○グループ活動に積極的に取り組み、自分の考えの幅を広げ、深めることができています。 ○ICT活用の授業への関心が高く、目標達成に向けて効果的に使用することができています。
現状の課題	1年	○「書くこと」において、100字程度で自分の考えをまとめることができない生徒が多少いる。
	2年	○「書くこと」において苦手意識が強い。文字や文法など知識面が原因である場合や論理的に書くための思考力に課題がある場合があり、両面でも指導が必要である。
	3年	○「書くこと」の活動において苦手意識が高く、基本的な文章の書き方が身につけていない生徒がいる。また、「話すこと」の活動において声の大きさや間、態度等の技術的なスキルに目標設定を置くが、話す内容や構成等の中身の充実がより一層求められる。
具体的な改善のための方策	◎主体的、対話的で深い学びの視点から	
	1年	○個人で考えた後にグループで話し合う時間を設ける。また、単元ごとに自分の考えをまとめる課題や振り返りを取り組ませ、深い学びとなるようにする。
	2年	○単元の最初にねらいを明示し、身に付けたい力を意識させる。個人で考えた後、ペア、グループ、全体で対話する時間を作り、最後に必ずもう一度個人で考えさせる。そうして、思考の幅や深みを持たせる。
	3年	○主体的な学びにつなげるために、単元の最初に目標設定と見通しをもたせ、単元の終わりには振り返りと単元で身につけた力を考えさせる。深い学びにつなげるために、個人で考えた後にグループで話し合う時間を設け、再度個人で思考する課題を設定し、自分の考えの幅を広げ、深められるようにする。
	◎学びに向かう力等を育むための視点から	
	1年	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。そのために、単元ごとに振り返りカルテの記入や考えをまとめる活動を行い、学びに向かおうとする力を育む。
	2年	○単元で身に付けたい知識・技能や思考力・判断力・表現力を意識し、自らの学習状況を確認しながら、学習の進め方を調整するように声をかけ、指導する。
	3年	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。そのために、単元ごとに学んだことをまとめるノート作りを行い、学びに向かおうとする力を育む。

